



SELECTION of TOP RIDER

トップライダーの 選択

RACING BOOTS

GAERNE GP-1

by 清成龍一

マシンセッティングをとことん突き詰める。めったなことでは「OK」と言わない。自分の走りに集中したい男、清成龍一は、ガエルネ・GP-1を履いている。

文——高橋剛 Go Takahashi
撮影——長谷川徹 Toru Hasegawa

一切妥協はしたくない
こだわりの男が領いた

その走りは、緻密にして剛胆だ。芸術的ですからある巧みなスライドコントロールを見せ、本場ヨーロッパの強豪並みいるイギリススーパーバイク選手権で3度のチャンピオンを獲得。鈴鹿8耐の優勝も4度を数える。

語り口調は、朴訥としていて率直だ。オープンでフランクな雰囲気は、こだわりや頑なさを感じさせない。実際、「僕は験担ぎはしない」ときっぱり言い切るのだ。

しかし、愛用しているレーシングブーツ、ガエルネ・GP-1の話になると、清成龍一の言葉は俄然熱を帯びた。

「踏ん張りやすくてホールドの効くブーツじゃないとイヤなんです。ちょっとでも動きにくさを感じたり、違和感があるブーツは履きたくない。GP-1は、とにかく動きやすいし、ステッブワークもやりやすい。僕はリヤブレーキも多用するんですが、とても操作しやすいんです。気に入ってます」

速く走るためのスライドコントロールは、一切の無駄を許さない。ほんのわずかな操作の狂いを嫌い、清成の履くGP-1は彼の足にピッタリと合わせた、タイトな特別仕様になっている。日常生活については、「ものすごくだらしがないですよ、僕……」と苦笑いする。でも、清成にとつての「仕事」、レースとなれば、話は別だ。

「神経質と言われようが、自分ができるとは目いっぱいこだわりたいんです。マシンセッティングも同じ。チームスタッフには「キヨは絶対にイエスと言わない」と言われる。できるだけ納得いくまで調整したい。めちゃくちゃワガママだと思えますよ」

「妥協なく、自分を追い込む。だからこそ、勝利を重ねることができる。」「レース前夜は、「勝てなかったらど

GAERNE GP-1

安全性と操作性を両立する「ガエルネフローティングシステム」を採用。通常は、ブーツから浮いた状態のセンターウィッシュボーンフレームが足の自然な動きを実現。アクシデントの際にはカーボンコンポジットの高剛性フレームが横方向やねじれ、後ろ方向への不要な動きを抑制し、足首を保護する。サイドのバックルでふくらはぎ部分の調整ができるカーフアジャスタブルシステムなどにより、フィット感も高い。
■色:白・黒・赤・青 ■価格:4万5150円

走ることしか考えたくない

だから最高のブーツを選ぶ



Ryuichi Kiyonari

1982年生まれ。'02年、全日本ロードST600クラスでチャンピオンに。'03年、故加藤大治郎の後任としてMotoGPに参戦。翌'04年にはイギリススーパーバイク選手権(BSB)に転向し、'06~'07年は2年連続で王座に就いた。'08~'09年はスーパーバイク世界選手権に参戦。'10年はBSBに復帰し、3度目のタイトルを獲得した。今季はアジア選手権で活躍。鈴鹿8耐では4度優勝している。

